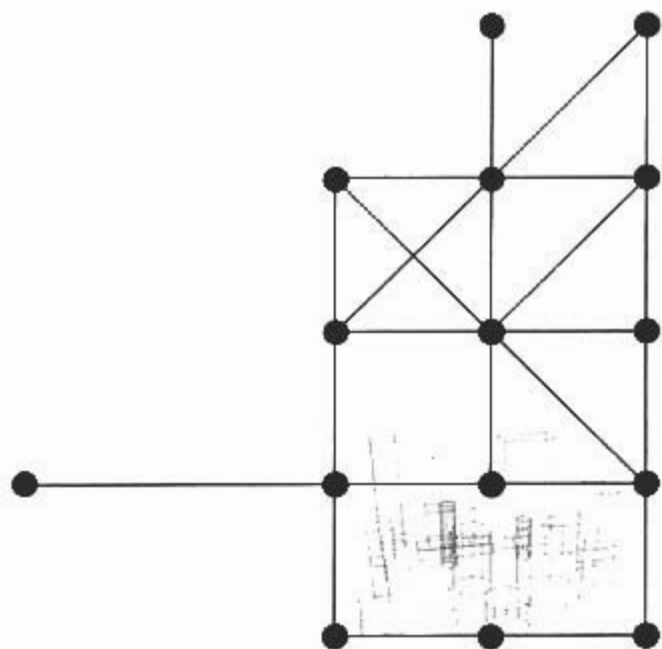


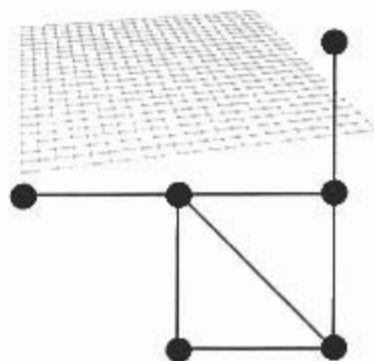


ITSUMIKAI

五三会

広島工業大学建築学科同窓会

昭和62年度版



目 次

ごあいさつ.....	2
OBだより(広島から).....	5
OBだより(近畿支部だより).....	14
在学生だより.....	16
建築家 高松 伸 講演会.....	18
第12回五三会コンペ入選発表.....	19
第13回五三会コンペ作品募集.....	23
第14回総会のおしらせ.....	27
建築学科ゼミ紹介.....	28
昭和61年度卒業予定者就職内定一覧.....	30
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿.....	32
五三会活動報告.....	33
五三会収支決算報告.....	34
五三会第14号(昭和62年度版) スポンサー一覧.....	35
広島工業大学建築学科同窓会「五三会」会則.....	36
お知らせ・編集後記.....	38

ごあいさつ

五三会顧問 佐藤重夫

五三会会員諸兄の平素の御活躍は時節柄、なかなか大変であろうと思う。それにも関わらず、とにかく前進的に努力を重ねられる意気に燃えておられることは、他所眼にも御同慶にたえない。衣食住、経済其他全てが現在は世界的な関連の上であり、まして建築に於いては尚さらにそうである。構造、材料、施工の全てが世界的にならざるをえないわけで、それは建築のビジネスにおいても又、同様である。合理性に立脚し、現代建築技術に恥じないものを願う建築のデザイン、発想、意匠に於いてもまた世界的視野の中での取り組みにほかならない。思えば深く困難なものといわねばなるまい。

しかし、ポストモダニズムといい、21世紀へのルネッサンスや架橋、インターナショナルリズムとナショナルリズムの相克の調和といい、眼界に映ずる日本は、今や危うくも世界中のモデル建築の玩具置場で満たされようとしている。逆に言って建築そのものや、建築に関わるわれわれの軽重が、今の日本建築界で問われようとしているといつてよい。現在の日本で行われている建築というのは、今、如何な方向に行こうとしているのか。まことに多様乱脈そのものである。社会や、また経済におもねることも多く、やたらなタレントというか、思い付きに流されていないと言えば嘘になるであろう。そこで、日本の建築はどこに日本の建築としての良さを見出そうとしているのかという反問が起きてくる。

人間性、生活感情、そうして人徳を汲むことのできる日本人の家、建築というもののあり方や特徴を持つことができれば、人々は何をどのように着目し、考慮しようとしているのか。このことを建築に関わるわれわれは何程の程度に思っているのだろうか、と私は悲しみの眼差しで見ている。

私は日本人の生活感情のよい特徴はものごとの捕え方が純で、抽象で、不定形、不足形、空間的で、融通性と創作性に長じていることであると思う。これは禅や能や茶や民家にも見えることであり、それは良い特徴ともなると共に、下手をすると無為、無色になってしまうものともいえよう。こういった日本人のよき特徴が如何に日本人らしく、建築界に、また建築を中心とした生活の様相、あり方に見えてくるかを期待しているわけである。かくして今の日本の建築界を眺めた場合に私はあまり称賛すべきものを多く持たないように思う。

技術は教えられても、手や心は教えきれない。どこまで見るかの見ようのみだ。その見ようは、心のしかりしむるもの、永遠の世界が対象なのだ。だから建築は面白い。これは私が何時も学生に長年言い続けている言葉である。私の恩師である故岸田日出刀先生は私に、日本には日本の家を作れと、何時もお教え下さっていた。心に浸みる言葉ではないでしょうか。五三会会員諸兄の御発展を祈ってやまない。
(61.11.25)

五三会会長 菅 原 辰 幸

同窓の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。

我々建築学科の同窓生は3,449名であり、本年178名の会員を迎える予定です。

第1期生が卒業した後に生まれた人たちが早くも後輩として在学するようになり、歳月の流れを感じさせられます。

母校では、鶴学園30周年の記念式典や記念講演会などの行事が盛大に催されました。

大学のシンボルタワーであった本館隣りの階段棟は15階建の新1号館に生まれ変わり、ラグビー場西隣りには温水プール、屋内競技場を備えた鶴記念体育館が建設されました。

そして、教育面では大学院の設置の努力がなされております。また、建築学科にあっては、学生数140名（1クラス）の方針が決定され、時代に即した教育への対応が求められております。

同窓の諸氏におかれましても、厳しい社会情勢下、日夜研鑽されていることと存じますが、厳しい環境にあればある程、反省と次を模策する心のゆとりを大切にして対応していただきたく思います。

同窓の諸氏が協力し、励まし合って前進されますことを期待いたしております。



退任にあたって

計画系助教授 谷 喜夫

五三会の皆様ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。さて私はこの3月で退任いたします。着任いらい今日まで「私が進めて来た卒業設計」をふりかえり、退任の言葉といたします。

卒業設計

私の卒業設計の指導は過去の優れた建築から古典を学び、それを現代建築に結びつけて建築を知り、理解することから始まります。具体的に申しますと、エコール・デ・ボザールの教育理念とシステムを参考に卒業製作の指導をしています。設計者が古典を知らずして、ポスト、モダンに走ることをないよう、過去から現代につづく数多くの名建築を知らなければなりません。又設計製図は頭で考えるだけのものではなく、目で捕え、手で「速く、正確に、美しく」図面の表現が出来るようその訓練が必要です。図面の表現技術は古典やボザールの図面に馴染むことであり、又それ等をコピーすることで、作品の構成と、比例の美しさを体験し感動しながら習得するものであります。

建築の計画

建築の計画、それは単に建築の単体のみを計画するのでなく、環境(街並、地域)と建築のかかわり方であり、又建築の外部空間と内部空間との調和のある構成であり、又機能と建築設備と人間生活の豊かなかかわりを考慮に入れたものであります。便利さや合理性のみの追求でなく、やすらぎやくつろぎとのバランスのある建築空間の創造へのアタックであります。従って、建築計画を進めるには、何をコンセプトとするか、建築の目的と建築の性格を的確に捕え、そのイメージと建築構成を試考錯誤しながら、エスキスを纏めるのであります。そこで設計者にとって、大切なことは「真善美」という建築の基本概念を常に持って計画に臨むことであります。即ち、

◎建築構成は建築の性格に対し常に「真実」であり、虚偽であってはなりません。

◎建築構成は機能に対し有目的で常に「善」であり、かつ良心的でなければな



りません。

◎建築構成は常に「美」しくなければなりません。

この三項目は自己の独りよがりではなく、客観的な評価が必要であります。

建築の修業と古典

古典とは建築の歴史的時代や様式をさすものではありません。勿論ギリシャ、ローマ時代のすぐれた作品遺構のみをさすのではなく、近代建築、現代建築にも古典は存在し、それ等にも古典といわれるに相応しい「真善美」のととのった建築が数多くあります。それ等の優れた作品から学びとるものは先ず建築の目的と機能を通して、建築の性格、特性が如何に表現され、又如何に美しく、時にはダイナミックに表現されているかを汲み取ることであります。構成の美、それは構造と形態の美であり又コンポジション、プロポーションの美しさでもあります。

現代のコンクリート、鉄、アルミニウム、ガラス等の材料で出来た建築にも「真善美」のすぐれた吾々に立派な手本となる作品が数多く存在します。それ等を通じて、自己の今後の建築設計に生かすことであります。

建築の装飾

建築には自己の性格の表現として、又詩的情緒の表現の為にデザイン(装飾)が必要であります。又これは作家(設計者)の思想を伝える大切な言葉であり文字であります。

結び

以上私と卒業設計について簡単に述べましたが、五三会の皆様、社会人として、現代建築と果敢に取り組んで、自己のめざす方向を見詰めて元気で頑張ってください。

OBだより

(広島から)

広島駅表口周辺地区市街地再開発事業について

広島市役所 生田 文雄 (47年卒)

会員の皆さん元気ですか。早いもので昭和47年に卒業し、広島市役所に勤務して以来14年が過ぎようとしています。在学時代のことを振り返ってみると、悪友と共に過ごした4年間の人生にとって大変有意義で一番楽しい時期でなかったかと思えます。現在、都市整備部市街地再開発課に在職し、市街地再開発事業を行う地元組合の指導監督の業務を担当しています。指導監督といっても、実際は地元組合に代わって、各権利者の調整や関係官庁機関との調整、組合運営などを行い事業を推進していくという業務であり、次々に発生する問題の処理に連日連夜かけまわっている状況です。

今回は、担当している事業のうち、本市の重要施策でもあり、長年の懸案事業でもあった広島駅表口周辺地区市街地再開発事業の概要を紹介したいと思います。

1. 事業の目的

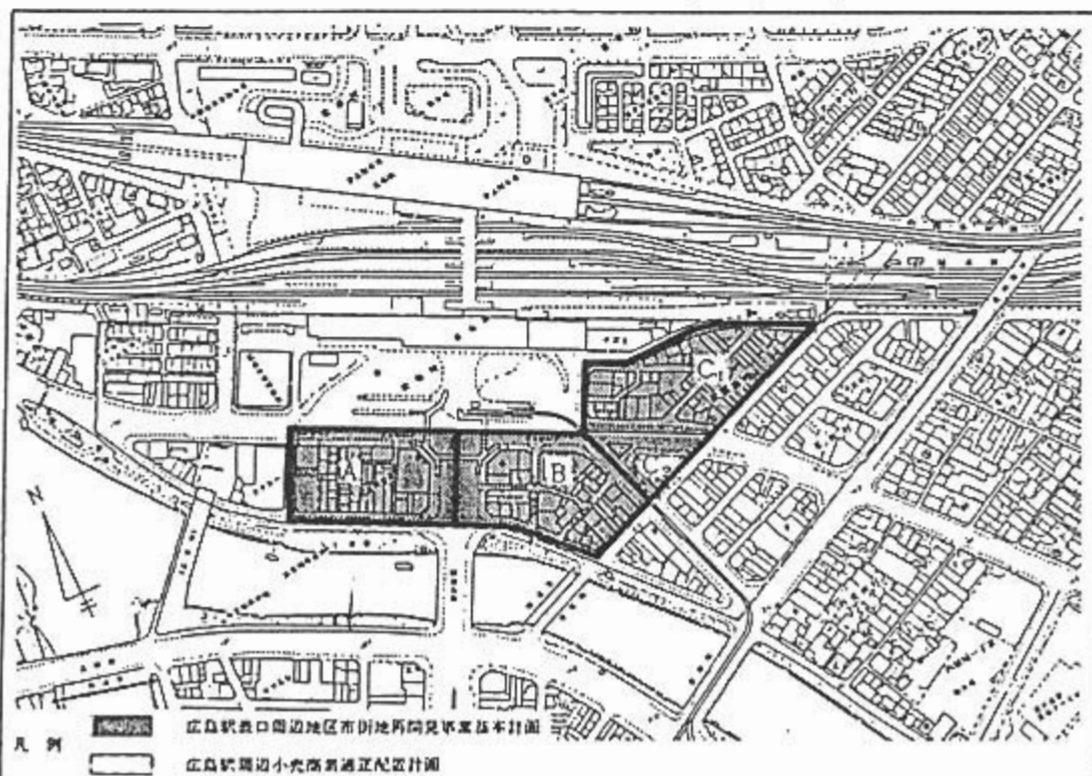
広島駅表口周辺地区は、広島市の玄関口にあたり、広域交通拠点として、また、都市計画中心地区と一体となった都心地区として位置づけられています。しかし、現状は木造の老朽家屋が密集し、商業、業務機能も地盤沈下をきたしています。このため市街地再開発事業を施行して、高層ビルの建設を行い街なみ整備と土地の高度利用を促進するとともに、都心地区にふさわしい商業、業務機能の集積を高めて、広域を対象とした高次の商業地区の形成を図ることを目的としています。

2. 事業の概要

この地区の再開発は、地元権利者が組織する市街地再開発組合が施行主体となつて行う組合施行を前提としています。

皆さんの中には、よく知っておられる方

広島駅表口周辺地区市街地再開発事業（区域図）



もあると思いますが、市街地再開発事業は新しいビルの建設資金などの事業費を土地の高度利用で新たに生み出される床(「保留床」という)の売却によってまかないます。このような方法で事業資金を調達することによって、権利者は、従前の土地、建物等の資産額に見合った新しいビルの床と土地を受けとるしくみになっています。

3. 事業の経緯

(1) 55年度

55年4月の政令指定都市への移行を機に、再開発を専任する市街地再開発課を新設し、次の2つの計画づくりを行った。
 ・小売商業適正配置計画＝重要商業拠点としての同地区の商業ビジョンを作成した。
 ・再開発基本計画＝都市計画、同地区が再開発の適地であることをチェックし、その施設計画の概要を検討した。

(2) 56年度から59年度まで

再開発の推進母体となる地元組織としての準備組合が、Bブロックで56年5月に、Aブロックで57年3月にそれぞれ結成された。

準備組合では、再開説明会の開催や各種の調査の実施などを通じ、組織の拡充強化を図った。

昭和57年度に、事業計画案を作成し、昭和58年度には、それをタキ台として具体的な協議を行った。

昭和59年度には、地元地権者が資金を拠出し従前資産の概算評価を行い、それをもとに出店計画、資産運用、住宅対策及び商業経営計画などの再開後の生活設計に係る検討を進め事業の推進を図った。

(3) 60年度

市民各層の代表で構成する「広島駅表口再開発促進研究会」を設置し、国の補助事業である事業推進計画を作成するとともに、広島市の商業の定性的分析をも

ブロック	Aブロック (広島百貨店側)	Bブロック (オメガランド側)	Cブロック (イズミ側)
施行地区面積	12,335㎡	14,051㎡	15,430㎡
関係権利者数	274人	140人	284人
土地所有者	5人	56人	82人
借地権者	217人	13人	25人
借家権者	52人	71人	177人
敷地面積	7,086㎡	8,323㎡	9,470㎡
建築面積	5,630㎡	6,658㎡	7,576㎡
延床面積	69,220㎡	84,841㎡	61,000㎡
階数	地上10階、地下3階	地上11階、地下2階(一部20階)	地上11階、地下3階(一部13階)
中心となる施設	商業 公共施設	商業、集務 ホテル	商業、ホテル 住宅
概算事業費	247億円 (63年度価格)	268億円 (63年度価格)	213億円 (55年度価格)

とに商業計画の具体化について協議を進めた。

また、開発法人の設立検討を行った。

なお、Cブロックは、準備組合の結成をみていない。

(4) 昭和61年度

Aブロック、Bブロックの準備組合は、関係権利者に対して都市計画決定と組合設立の同意を取りつけることとし、現在までそれぞれ94%、80%の地権者の同意取得を完了している。

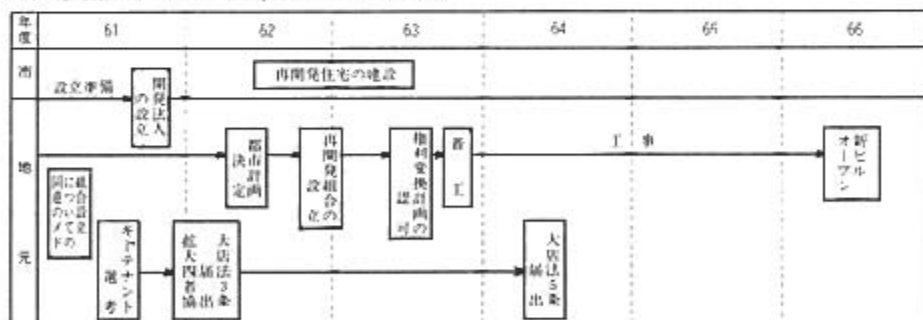
また、各ブロックともキーテナントの選考作業及び保留床の売却先となる第3センター方式の開発法人の設立の作業に着手している。

おわりに

現在、内需拡大のための経済活性化の目玉として、都市再開発が脚光を浴びていますが広島市においては、市街地再開発事業は初めての経験であり、私達担当者にとっても事業を進める過程で次々に発生する諸問題の解決



4. 事業スケジュール(A・Bブロック)



を探りで行っている状況であります。しかし、本市の重要プロジェクトの1つであり、現在の苦労は必ず将来に役立つと自分にいい聞かせて日夜頑張っております。幸いにも職場の建築技師は全て同窓生であり、我々が活躍することによって、ある意味においては五三会の発展にもつながるのではないかと考えてい

ます。

会員の皆さんの中には、再開発事業に携わっておられる方もあると思います。広島市に來られることがありましたら是非立ち寄っていただき意見交換をさせていただきたいと思っています。

会員の皆さんの御活躍を期待し筆を置きます。

OBだより

広島国際平和文化会館(仮称)建設を担当して

広島市都市整備局建築部営繕第一課

加川 幸 則 (46年卒)

広島市では、市制100周年の記念事業として、世界的に有名な広島平和記念公園内に広島国際平和文化会館(仮称)を建設しております。

その設計監理は、世界の建築設計業界の中でも超一流といわれている丹下健三・都市・建築設計研究所です。私は、その建設の設計を担当し、そのうえ、監理を担当するという非常に恵まれた立場にあります。

その中で私が感じたことを述べてみたいと思います。御承知の通り、平和公園は丹下健三先生の設計であり、各施設が、原爆ドームを基線にした十字(クロス)で構成されています。

この考え方は、今回の設計の中にも生かされており、何か哲学的なものを感じます。

また、いつも人の目の位置から見た状態が、どのような状態になっているかということ意識してデザインを考え、材料の割付等、建物に出て来る線にも。平面作成の時点から注意されているのがよくわかりました。これらは、設計の基本ではありますが、我々はえてしてそれを忘れて設計しています。

この建物の概要は、下記のとおりです。

おわりに、この建物は、昭和64年春の完成予定です。完成前に施設見学を予定していますので、ぜひ御参加下さい。

概 要

■規模、構造等

建築場所	広島市中区中島町 (平和記念公園内)
地域地区	住居地域、準防火地域
敷地面積	115,932.60㎡
建築面積	3,497.07㎡
延べ床面積	24,649.02㎡
規模	地上3階、地下2階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り
最高高さ	12.43m
最高軒高	10.42m
工期	61年10月～64年3月
建設工事費	約110億円
監理	広島市都市整備局建築部
設計監理	丹下健三・都市・建築設計研究所
施工	
建築工事	フジタ・大林・増岡・日成・山陽建設工事共同企業体
空調設備工事	新日空・理研・塩田建設工事共同企業体
電気設備工事	中国・日比谷・長沼建設工事共同企業体
衛生設備工事	菱和調温・広島ポンプ建設工事共同企業体

■施設

大ホール	1504席 サラウンドステージ型またはエンドステージ型 残響時間 1.5～1.9秒(500Hz、満席時) 6ヶ国語同時通訳設備、映写設備
国際会議場	200人収容、傍聴席198席 6ヶ国語同時通訳設備、映写設備
大会議室	100人収容 2室(1室として使用可) 6ヶ国語同時通訳設備
中会議室	50人収容 2室(1室として使用可)
小会議室	30人収容 2室(1室として使用可)
国際交流ロビー	在広、来広外国人のための観光、生活情報などの提供
その他	会議運営事務室、図書資料室、研修室、レストラン、喫茶、売店等



ひろ・しまのまちづくり

広島市都市整備局都市整備部都市計画課

松田 智 仁

広島市は昭和60年3月の五日市町との合併により名実共に100万都市となりました。今後は中国・四国地方における中枢管理都市として、情報化、国際化、技術革新等に対応した新しい発展に向けて先導的な役割を果たしていくことが一層期待されており、高次都市機能の強化、拡大を含め21世紀を目指した世界に開かれた活力と潤いのある都市づくりを進めていかなければなりません。しかしながら広島市は平地が少ないという地理的な制約から、高次都市機能を担うまちづくりを進めていくにあたっては、土地の合理的かつ高度な利用の促進(都市の再開発を含む)及び山地部の開発あるいは海面の埋め立てによる新たな土地の確保を行う必要があります。

前者を代表するものに線引き(市街化区域及び市街化調整区域の区域区分)・用途地域の見直し、後者に西部丘陵都市建設計画、五日市沖埋立等があります。

線引き・用途地域の見直しは、昭和54年の第一回見直しの後、社会経済の大幅な変化等に対応し、広島市のまちづくりの長期的展望、望ましい土地利用を促進させるため、7年ぶりに見直されることになったものです。

今回の見直しの特徴は、線引きにあつては保留人口フレーム(民間が行う大規模な住宅団地などの計画地等について、編入要件が整った時点で随時市街化区域に編入できるよう計画人口を保留しておく制度)の活用及び整備、開発又は保全の方針における都市再開発の方針の確立、用途地域見直しにあつては都心計画に基づく都心商業地域の容積率アップ、地区計画制度の活用による都心住居地域(容積率300%)の設定があげられます。市ではこれらによる、活力あるまちづくりを期待しているところです。

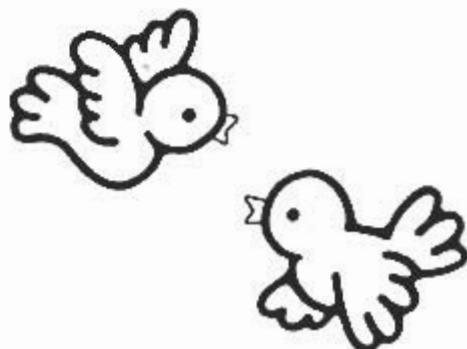
また、西部丘陵都市建設は、五日市インターチェンジ周辺の丘陵地について、「住み」「働き」「憩う」機能を合せ持つ人口10万人程度の総合自立都市の形成をめざし計画的に進められているものであり、五日市沖埋立は都市再開発用地を含む154haの埋め立て事業で、いず

れも昭和70年までには全容が明らかになると思われます。

これらの施策は主として民間活力をまちづくりに生かしていこうとするものであり、折しも全国的に構造不況、円高不況が大きな都市問題となっている今日にあつて、官による高速道路網及び新交通システムの整備等と合いまって、昭和69年に開催されるアジア大会に向けて社会資本をストックする広島の発展過程における重要な要因となっています。

今後は、現在見直しが進められている広島市総合計画に基づいて、高度成長期に積み残された生活関連施設等の整備を進めつつ、官民一体となってメッセ・コンベンションの核となる宇品地区の再開発や、広島南道路の整備、既成市街地の再開発等を進めて行かなければなりません。

また、これまで述べできたようなダイナミックな都市構造の形成に係る施策の他、地域の特性に応じたきめ細かなまちづくりや、区を単位とするビジョンづくりなども必要になってくると考えています。これらの課題を糧にこれからも市民に愛される世界のひろしまとしてのまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。



広島大学工学部跡地利用

広島県庁都市局営繕課 下 健 蔵

私が工大を卒業した翌年、今から14・5年前に、広島大学跡地利用計画は、始まっていた。そして今、私は、その広島大学工学部跡地利用の一施設である、広島県情報プラザ(仮称)新築工事に、60年4月より携わっている。そこで、利用計画について、述べてみたいと思う。

まず、その経過を説明することにする。

昭和48年広島大学が、賀茂郡西条町(現東広島市)に移転先を決定し、移転計画が本格化して、広島大学跡地利用について注目を集め、期待がよせられ始めた。

51年には、県・市・広島大学・経済界・学識経験者らで、広島大学跡地利用研究協議会が結成され、跡地利用についての基本構想の策定方法に始まり、跡地利用の大まかな方向(ゾーニング)等の検討が進められた。しかし、58年に広島大学が移転計画の延期を発表したため、当面、既に移転完了した工学部の跡地問題を先行させることになり、59年に工学部跡地利用計画について意見のとりまとめが行われた。そして、60年には、工学部跡地利用計画が各方面に承認され、土地取得がなされ、順次整備計画が開始されている。

広島大学工学部跡地利用計画は、多様な研究施設を中心に次のとおり、コンパクトなエリアに医療、健康、スポーツ、文化、産業技術、緑と多種の機能、集人力のある施設が集積されているが、更に特徴的なことに先進住宅が加えられている。

利用計画の概要

●研究ゾーン

○総合健診センター

交通至便の現在地からの移転であり、また利用者に被爆高齢者が多いことから、バス停、電停から近接したところに立地させることが必要である。従って、この総合健診センターについては、電車通りに一番近い角地に立地させる。

○放影所

総合健診センター、原爆病院に近接した場所に立地させる。また、閉静な場所への立地が望まれている。

○工業技術センター

地元の工業の育成、発展を促すことを目的とした機関であり、自転車による来所が多いことから、交通条件も考慮すると南側角地が適当である。

○情報プラザ

産業技術交流センターについては、工学部跡地を産業情報の拠点として整備しようという構想に基づくものであり、工業技術センターや(財)発明協会との有機的連携を図るとともに、利用者の利便についても考慮する必要がある。また、県立図書館については、広域利用施設であり、交通条件について考慮する必要がある。

●公園ゾーン

○千田公園

元安川の工学部跡地周辺は川幅も広くゆ

ったりとした風景をみせており、公園の配置についても、こうした川との関係から西側に川に向かって開かれた公園であることが適当である。

○中区スポーツセンター

いづれへの立地も可能であるが、有機的利用という観点からは、公園との一体化を図ることが必要である。

●その他

○集合住宅

一部を先端産業の事務所機能として利用することにより、都市機能の整備を図ることから、交通条件についても考慮する必要がある。

○市道拡幅用地

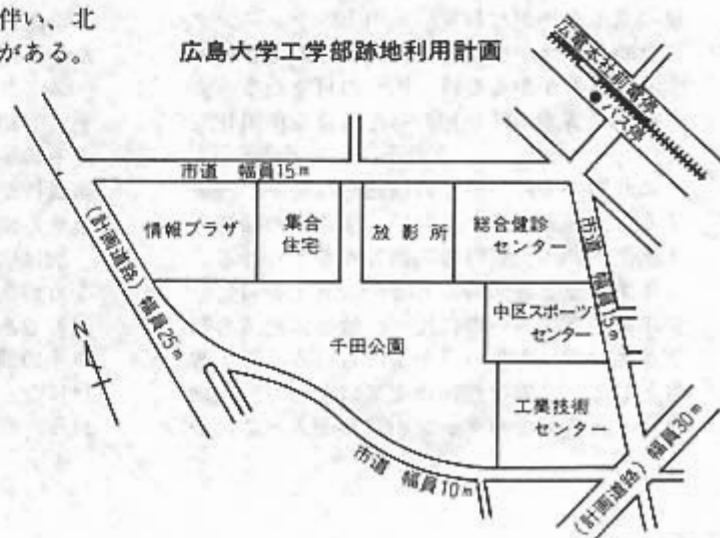
工学部跡地への諸施設の立地に伴い、北側及び南側市道の拡幅を図る必要がある。

広島大学工学部跡地は、前述の利用計画のとおり、広島都市圏域の都市機能充実のための各種公共施設用地として利用され、圏域の重要な拠点として生まれ変わろうとしている。

すでに、工業技術センター、情報プラザ、中区スポーツセンター、市道拡幅工事に着手し、64年度中には、おおむね施設整備が完了する予定である。

完成の晩には、広島文化・技術・医療など幅広い機能の先端的な部分を担う地域として、重要な場所となることであろう。また、情報プラザも、単なる施設計画にとどまることなく、敷地とその地域環境に積極的な役割を果たして行くことが出来れば幸である。

広島大学工学部跡地利用計画



OBだより 「69.4」

広島県庁 佐々木 正 治 (48年卒)

木造69.4㎡。和室6帖3室、台所6帖、脱衣・風呂3帖、便所0.75帖、事務室6帖、玄関0.75帖それに廊下、押入、で69.4平方メートル。

どんな計算で69.4平方メートルになるのか理解できないが、兎に角、平家であろうが、2階建であろうが、69.4平方メートル以内に延べ床面積を納めなくてはならない。和室、台所、事務室、脱衣・風呂、便所、玄関、押入(和室各室に押入1間×半間)、倉庫(台所に付属する1間×0.75間)で64.5平方メートル。残りを廊下に当てる。

これに、和室3室の内、2室は続き間とし残りの1室は独立性のあるものとする。

この公団タイプに似た条件の中で敷地、方位の立地条件が加わり、その上、ランニングのための予算が少ないので、少しでも長持のする、手のかからない、汚れが目立たない、という経済的条件が加わった事務所併用住宅。

これらの条件の中での問題点は何か、整理すると、平面プランの問題、構造上の問題、工法上の問題、材料の問題等々考えられる。

まず平面上の問題であるが、第1番目に、要求部屋数が多いのに比べ、延べ床面積の制限が相対的に少ない事が揚げられる。第2番目として、公的な建物は全てにおいて、問題になる、色々なパターンの家族が入ってくる

可能性があり、プライバシーとフレキシビリティの兼ね合いの問題等が考えられる。

第1番目の面積についての回答は、公団タイプの住宅が解決している。この様に、共用部分の面積をコンパクトにまとめ、その廻りに部屋を如何に有機的に配置するかにかかる。そこで問題になるのが、風呂・脱衣を廊下に付けるか、台所に付けるかである。台所に付ければ、廊下の面積は少なくて済むが、台所は、廊下の機能を持つ事になる。それだけでなく、台所は、裏玄関も取り付くし、流しも入るし、食器棚や冷蔵庫等の家具・調度が入る。狭い台所(ダイニング・キッチン)なら、やはり風呂・脱衣は廊下から出入りするのがベターであろう。

この配置の中で、如何に廊下を少くまとめるかが、面積の問題への回答のようだ。

又、2番目のプライバシーとフレキシビリティの問題には、日本の建物の特徴の一つである障子、襖の力を借りるしかない。しかし遮音性が悪い。これに対する安価で、簡単に出来る間仕切りが考えられないであろうか。

次に構造上の問題であるが、強く、狂いのない耐久性のある建物にする方策は何か、が回答である。それには、第1番目に木材の含水率の問題、第2番目に耐力の問題、第3番目に今、その勢力を増している蟻害が考えられる。むろん木材の材種の選定も考えられる

が、単価が全く異なるので論外である。

1 番目の含水率の問題についてであるが、仕上材にしてもそうであるが、構造材についても、水も滴る様な材が流通し、それを使って建方をするのでガタが来る。それも規格材は木柄が小さく、クリープ現象を考えると少し太めの材を使いたい。それで別挽の材を使うと益々含水率の多い材を使うことになる。木材の気乾状態の含水率は、外部で15%弱、内部で7~8%位のようなのだが、建方時の木材の含水率を調べてみると、余剰水の抜けた30%位から25%位の規格材、ひどいものになると50%位のものもある。少しでも狂いのない建物にしようとする、気乾状態に近づけた材料を使いたいものである。ただ別の考え方もあり、建方で金物（カスガイ等）で締め付けた後、乾燥収縮する事により、金物に応力がかかり建物が全体として締まるという説もある。程度の問題であろうか。

第2番目の耐力の問題は、公庫の仕様が普及して来ているので、かなり周知されて来ているが、それでも職人気質から嫌われている。釘、金物を使用するのでもあろうが、完全に理解はされていない。又、応力集中のない構造用合板を使った耐力壁は、是非とも普及したいものである。

第3番目の防蟻については、これも公庫の仕様が普及して来ているし、全国的にアリの

被害が広がっている、必要性は衆人の認めるところであろう。できるなら床下の防湿もやれば一層効果が上るであろう。ただ、省エネ対策の保温材は遮湿層であり、特に現在の様な石油ストーブの暖房が一般的であると部屋の角の部分の保温材の施工精度の問題から結露が発生し易く、施工時には十分な注意が必要である。

その他不動沈下防止の鉄筋コンクリートの基礎、又外壁のラスモルタルのクラック防止等々の耐久性向上の問題点が考えられる。

色々と69.4平方メートルの木造、事務所併用住宅についての問題点と解決のための方策を書いて来たが、安く、しかも丈夫にするための方策を色々と考えておられる方は多いであろう。コソッと私に教えて頂けないだろうか。広島県警察派出所のために。



OBだより

(近畿支部だより)

「私」をとりまく、不思議な縁……「広島」

神戸池組本社電算部 坂 根 満 (49年卒)

本来、私は広島の「産」ではない。奇遇な縁にて、広島に地にて学舎を見出したのが「広島」との縁の始まりである。

広島を原点とした、幾多の出会い、そして別れ……。

五日市・三宅・学園周辺に散在する学生寮、工事中の西広島バイパス、それらを背景とした、クラブ活動・スキーバス・大学祭etc……。

それらの一つひとつが青春であり、かつ、それらをして、広島を私の心のふるさととならした模様である。

卒業後、建設会社に入社し、以来10数年、建築構造設計にて、食を依存してきた訳であるが、最近になり、前方一方向凝視の生活から、やっと、左右の景色が眺められるようになったような気がする。

私には、躁うつ症的資質があるのか、大体5年のサイクルにて、「俺は、建築家をめざして頑張ってきたつもりであるが、今の自分は、果たして建築家の一端に座しているのか、それとも建築屋の側に位置しているのだろうか……？」等と思うことがある。

そういうときに、ふと、学生時代を振り返り、「広島において、私が学んだものには、どういふことがあるのだろうか？」等と自問することがある。

その都度、返って来るのは、

1に、冒頭に記した、様々な人格との出会い
(これは、私の現在に多大な影響を与えたことは確かであり、自慢できるものである。)

2に、工大にて学んだ種々の学問……
(もっとも、これは一寸気取ったセリフであり、私が優秀な学生であった……という話は、ついぞ耳にしたことが無いが……)

という答が常である。

後者はさておき、前者だけは、明言できる私の財産であり、その利子として、広島に関わる「出会い」をベースにした、あるいは、さらにその「出会い」を越えた、新たな「出会い」に遭遇することがある。

諸方面に活躍されている、例えば、建築の設計・工務・営業、或いは、建築関係以外の業務に携わっておられる諸兄達……。

過日、某シンポジウムにて活躍している工大OBの知人の顔を見た。又、論文集にて懐かしいOBの名前を発見した。皆、なかなか活躍しているようである。

偶然による遭遇、或いは、計画的な遭遇(?)等により現われる、彼等の生きざま、ものの考え方等……。

私のコンディションに応じて、全て、私に対して、今だに刺激となるべきものであり、かつ、啓発されるものである。正に、何ものにも換え難い私の財産である。

彼等が、私に及ぼす大きな影響を考えた時「ひょっとして、私自身の存在も、前述したほどでは無いにしても、逆に、良かれ悪かれ、諸兄に、影響を与えていることがあるのかも……」等と、時々、自意識過剰になったりすることもある。

いやいや、先輩・後輩の活動を耳にするにつけ、それに恥じない為にも「出会い」をもっと深く、かつ、拡大し、エキスを充分吸収し、自意識過剰ではなく、本物となるようにせねば……と思うばかりである。

広島を起点とする先輩・後輩諸兄の今後の御活躍をも祈ることにする。

最後に一言

ああ、奇遇なりしや
不思議な縁……広島

音沙汰通信

大阪大学大学院1年 松尾兆郎 (59年卒)

広島工業大学を卒業して、はや3年が経過しています。

工大キャンパスも新しい本館が建つなど、以前とは大分変わってきていると聞きます。

この原稿を書き始めながら、今年、五三会コンペはどうだったのだろうか。卒業設計はどのようなものができるのだろうか、などと一人懐しく思い巡らしています。

ところで、私は、縁あって阪大の留学生会館に住むことになりました。ちょうど12月で1年になります。

日本人学生が留学生会館に？と思われるかもしれませんが、もちろんただ住んでいるだけではなく、もう一人の院生と共にチューターという仕事をやっているのです。何ということはないのです。簡単に言えば、会館内での留学生の世話なのです。備品の借出し、国際電話の取り継ぎetc……もちろん昼間は、本業の学生です。現在、会館には、70人程の留学生（中国、韓国人が8割、その他タイ、フランス、インドネシア、シンガポール、台湾、ベルギー、ブラジル…）が居住しています。皆、日本語が上手で会話で困ることは殆んどありません。

ここに住んでみていろいろな国の人から、その国民性、最新の国際情報、裏話など知ることができ、また思いがけない体験もできました。例えば、中国人には大きく2種類の人がいるようです。一つには、大変（ものすごく）といった方がいいかもしれない勤勉で、まじめで、礼儀正しい、日本で一般的に思われている中国人像に近い人達です。そして、もう一つは、完全に自由奔放な生き方をし、

集団生活の中の個を殆んど自覚していないかのような人達です。

この極端な違いはどこから来るのか、そして、また、私にとっては、共産社会の中で想像しがたい人物像であり、今だに理解に苦しむ国民です。もう一つ付け加えれば、一人ひとりに大変強い誇りを感じます。長い歴史をもった国なので当然かもしれませんが、私などいつも見習いたいと思ってしまいます。最近、テレビでよく紹介され、一種のブームにもなっているお隣の韓国の人はどういうと、一人ひとりが素晴らしい礼節を身につけていて、日本人の私が恐縮する時もよくあります。そして、先輩、後輩の関係が社会全体の中で強く意識されているようです。

また、やや独断的ではありますが、いろいろな意味で韓国人と日本人は、最も親しくなる可能性をもった国民だと思います。先日はタイ国国王の誕生日を祝うパーティーが会館内で開かれ、全国からタイの留学生が集まりました。私も招待され出席しましたが、美しい民族衣裳と演出で、つかの間の異国情緒を味わうことができました。

国際事情はさまざまで、ここ数年の円高で、留学生生活もかなり苦しいようですが、一人ひとり、素晴らしい個性をもった人達ばかりです。そして、私にとってこの留学生会館での体験は貴重なものとなりそうです。

最後に、ここまで私のとりとめのない話をお読み頂き有難うございました。

皆様の今後増々の御活躍を心からお祈り致します。 吉日 千里丘陵にて

我が五三学生会部会は、61年度より、建築学科生にその名前を浸透させようとしております。それによって、建築学科生の活発化・活性化を計ろうとしております。その為の動きとして、イベントの増加、その内容の充実化を念頭に置いて動いております。

今年度の行事内容

- 61年3月24日 卒業記念パーティ
広島サンブラザにて、前幹部合同により企画、運営、協賛をしました。
- 61年4月 オリエンテーションセミナー
新入生との交流、そして五三会の説明。
- 61年8月 ビアパーティ
(4年生チューター会)
この企画、運営、協賛をしました。
- 61年11月 大学祭(学科展)
卒業設計展示、アイマークレコーダーによる視覚実験、CADシステム公開、建築物写真パネル展示、五三会コンペ発表、ゼミ室公開など。
- 61年11月9日 建築家 高松 伸 講演会
五三学生会部会主催、五三会協賛によるもの。
- 62年3月 卒業記念パーティ(予定)

以上のような内容であります。この中で実際に主催という形で表に出たのは、「高松 伸」講演会だけであります。その他の行事は名前はでていませんが、実際はほとんどと言ってよいほど、企画・運営をしております。この原稿の提出後、新規役員が決定いたします。もう自分達の仕事は終わりに近い。しかし、なんとかしてこの建築学科を楽しく学べる場所にして行こうと考えておりますので、学生諸君、OBの方々、御協力してやって下さい。



コンペについて

4年 古川 哲司

広島工大の建築学科に入って一番記憶に残ったことと云えば、やはりコンペ(設計競技)に参加した時の忙しさではなかろうか。建築にたずさわっておきながら一度も計画することなく終わってしまうのは、建築を知らずに過ぎて行ったように私は思えるのである。

大学生活の後半の2年間で幾つものコンペに参加しました。それは新建築社主催の大規模はコンペから工大が主催するコンペまで、それは大小さまざまに……。どのコンペも皆が食事する間もない程忙しく、あとから考え直せば反省することばかりだが、提出後の緊張感と開放感は何にもまさるかけがえのないものではなかろうか。友人同志との対立、自分との葛藤が楽しく思えてしまう。そんな一時を過ごすことができるのである。

建築にたずさわった限り何か残してみたいというその思いを五三会コンペにぶつけてみてはどうだろうか。

建築学科生として

4年 二見 浩

建築学科…物を創り出すことを学ぶ学科で3年以上が過ぎた。最初のうちは、やはり受身にまわった感じで、ただ、与えられたものに対して、それだけを考えることが中心だった。しかし、学んでいくうち、小さな切掛によって、自分自身の中で幅広く、そして興味深く、いろんな面から、その物事に対して考えることを思った。その小さな切掛とは、人それぞれによってちがったものだと思うが、講義中の講師の一言であったり、目についた雑誌の1ページであったり、また、じかに見たり感じたりした建築を含めた創造物であったりする……切掛は多くさんある。ただ本人がそのことに関して、ほんの少しでも感じることをみつければ、そこから考えは始まる…人間は、本来豊かな創造性を持っているものである。……これから先、建築を含めていろいろな出来事、考えなどに出逢うと思うが少しでも感受性を強くして、考えぬいてみたいものだ。

建築家 高松 伸講演会

学生部会長 山本 重信

高松 伸プロフィール

略歴

1948 島根県で生まれる。
1971 京都大学卒業。
1979 京都大学大学院卒業。
1971-75 川崎清十郎建築研究所。
1980 高松伸建築設計事務所設立。
主作品
織陣-ARK-PHAROH-WEEK

昭和61年11月9日(日)に、建築家 高松 伸先生による「私の設計手法」と題された、講演会が行なわれました。講演に際して先生は400枚余りのスライドを用意しており、そのスライドと話の中から、先生の世界観、建築性の本質みたいなものを、感じ取って下さいと述べられてから講演は始まった。

講演の冒頭の言葉に、「私は建築に力を生み出したい。建築は、ある種の力を持ってかまわないんだ。そして、建築における意味をどんどん増やして行き、それが言葉に尽くせない力となれば自分にとっての建築は、理想状態になっただろう。」とある。その考えが、どのようにプランに現れるのだろうか、かすかな疑問を持ちながらも講演を聞き込んでいった。

次々と写されて行くスライド、そこには新しい形が次々と出て来る。それに至るまでの製作過程、それによってどんどん増えてゆくドローイング・スケッチ、そして完成までに妥協は存在しない。その結果から来る1000枚を越えたエスキースの存在、しかもほとんどといってよいほどそのドローイングの密度の高さに妥協を許さない製作過程、徹底した建築の姿勢に自分は驚いた。いや尊敬してしまっただけでよいだろう。そんな自分を感じながらも講演は進み、所々に笑いを折りまぜながらあっという間に、2時間ほどたちました。



一人の建築家の生き方、建築に対する考え姿勢そして、実際に建つ建築の設計の困難さを聞いて、この講演を聞きに来た自分を含める多くの学生は、それによって建築に対して興味を持ち始めるものもいれば、よりいっその興味を持って帰って行くのであろう。

また、聞きに来られた社会人の方々は、この講演を一つの刺激剤にして帰られたことと思います。

最後に、この講演会を主催するにあたって五三学生会部は、卒研で忙しい中、建築学科学生の為にと使命感にかられ、すごく純粋な気持ちでこの講演会を開く事が出来て大変うれしかったです。大成功でした。

12th ITSUMIKAI COMPETITION

第12回五三会コンペ入選発表

コンペ報告

西 原 淳

昭和61年7月30日、第12回五三会コンペは締切の日を迎えました。ふたを開いて見ると始まったメインテーマ『広島街づくりを考える』に沿って定められた課題〈連歌・ポストオフィスのある広場〉の手軽さ故か、賞金総額の少ないコンペにもかかわらず、応募総数も増え、21作品もの応募があったことは、我々コンペ委員にとって、大きな喜びとなりました。

審査は9月7日広工大にて行われ、審査員の谷 喜夫先生と我々コンペ委員の投票による、厳正な審査の結果、右記の結果となったことを報告いたします。選ばれた者も、選に漏れた者も、共に力作で、その力量の差は僅少であった様に思われ、応募者の方々の、これからの活躍が楽しみです。

しかしながら、応募総数の内で、母校からの応募は5作品で、全体の4分の1にも満たないことが、気懸かりです。セミオープンコンペの性格上、やむなき事といえ、それまでですが、工大学生諸君のよりいっそうの発奮を、願ってやみません。

最後となりましたが、今回、審査を御願いした 谷先生は本年度限りで退官されると御聞きしています。在学中はもちろんのこと、社会人となってからも五三会コンペのために、様々な便宜を計っていただき、我々卒業生が先生から受けた恩義は量りしれません。心より感謝の言葉を申し上げます。
「先生、長い間本当にありがとうございました。先生の御健康と、これからの御活躍を、心よりお祈り申し上げます。」

優 秀 賞

小 川 幸 佑 (広島大学)

優 秀 賞

富 山 幸 光 (福山大学)

佳 作

杉 山 健 (福山大学)

佳 作

盛 岡 隆 治

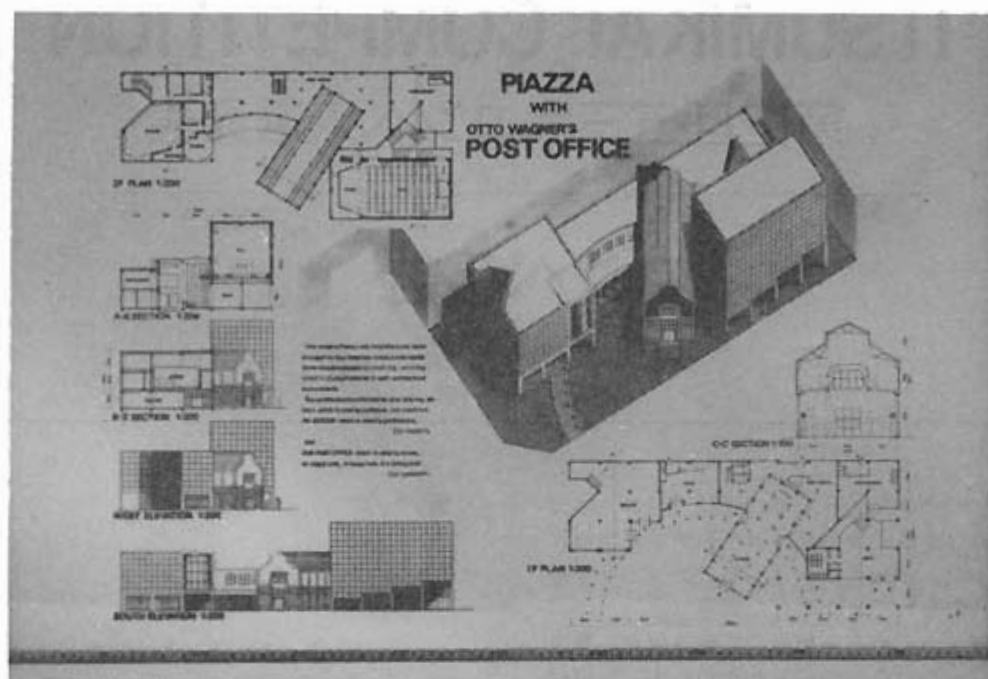
山 本 重 信

横 瀬 文 彦

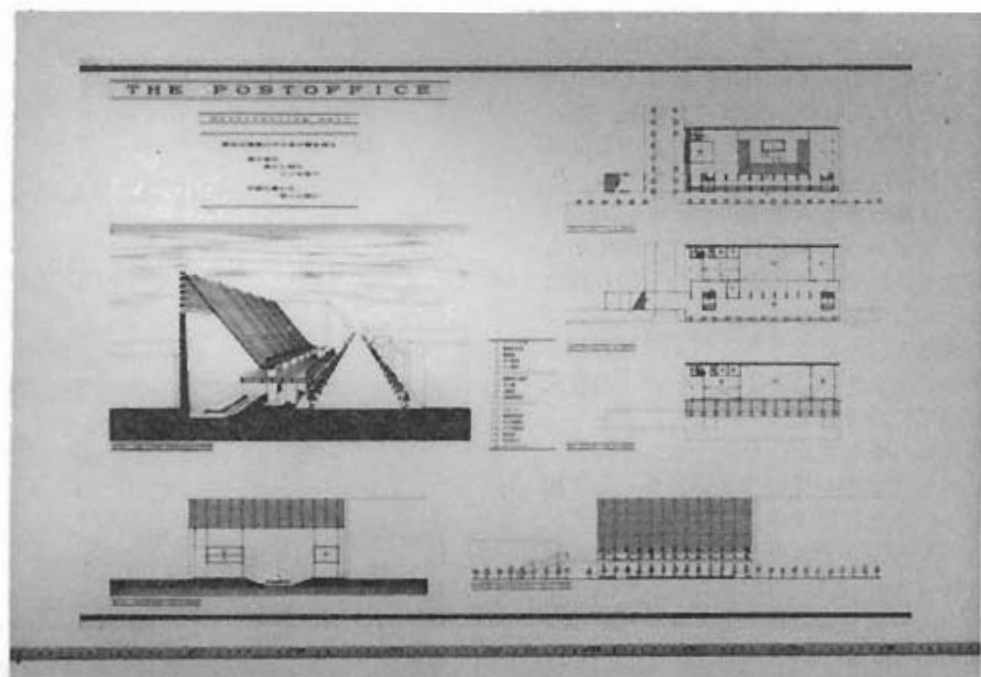
古 川 哲 司 (広島工業大学)



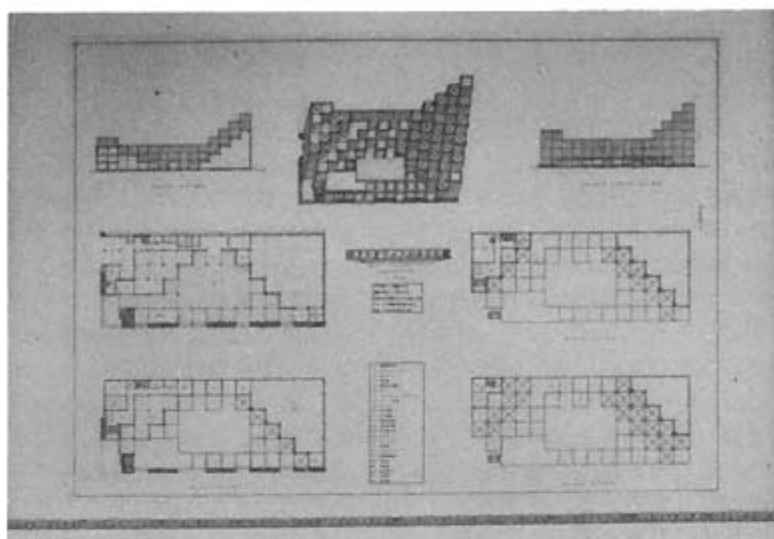
優秀賞 小川 幸佑(広島大学)



優秀賞 富山 幸光(福山大学)



佳 作 杉山 健(福山大学)



佳 作 盛岡隆治・山本重信・横瀬文彦・古川哲司(広島工業大学)



審査講評

五三会のコンペも回を重ねて12回をむかえられたことを御喜び申し上げます。

本年のコンペの審査を私にと云うことでありましたが、五三会の先輩である松田さん、落合さんと西原さんの3人にも加わっていただきました。本年のコンペの応募作品は21点の多くの作品がありました。

今までの五三会のこのコンペは「イメージ」の提案を中心としたコンペでありましたが、今年は作品募集要領のはじめにも記載されているように「より身近で地方色溢れるコンペとして（広島県の街づくりを考えるを基本テーマに）広島県の具体的敷地を選んで、課題を決めて行きたい」と云うように、コンペの性格、目的、方針に変化があることを発表されていますので、審査もその線を進めることにしました。応募作品には、その線からはずれ、課題の「連歌」と云うキーワードとそれから来るイメージを課題の対象として、とり上げている作品が目立ちました。

云いかえればキーワードの「連歌」をイメージとして、設計者が追いすぎ、ロケーションをあまり重視して考えていなかったのではないかと思います。これはコンペの主旨説明に不備な点があったのではないかと反省し、今後の課題づくりに注意して行きたいと思います。一方応募者にもコンペが何を求めているかよく課題を分析し、出題者の意図を汲んだコンセプトとしてもらいたい。形態や機能から来るイメージだけではなく、地域環境に

対する配慮が不足していた。

私としては、バスセンター、百貨店、野球場、と多くの人の流れる場所であり又人、自動車、電車、等の交通量の多い場所であることに注目して、課題の建築はアトリウムをもつ建物であり、その一階が閉ざされたイベント広場であり、又前面歩道上にペDESTリアンデッキを設けて、そごう、球場えとつながり、更にホールは、地下ホールとして、地下道で周囲と連絡すると云うような、具体的な発想が出てくることを願っていました。富山君の案がそれに近いもので他には見られなかったのは、ちょっと寂しく思いました。

図面の表現（プレゼンテーション）も図面構成のまずさが目立ちました。やはり、イメージ、アイデアだけでなく図面構成のうえから見てコンポジションとプロポーションのよい、美しく見る人に強く訴えと共に、見る人を図面にさそいこむような表現がほしいと思います。

以上のような点から私は審査いたしました。又審査は4人の投票で4点を選出しました。その結果1等、2等、3等といふ評価でなく、優秀入選作2点、佳作2点という選び方をしました。

優秀入選作は、イメージと構成という点で富山君の作品を、又図面構成と表現力という点で小川君の作品を選びました。

以上で審査の報告を終ります。今後ますます五三会コンペの発展を、お祈りします。

13th ITSUMIKAI COMPETITION 第13回五三会コンペ 作品募集

●メインテーマ「広島街の街づくりを考える」Part2

五三会コンペも今回で第13回目を迎えることが出来ました。長い歴史の間には、様々な問題も発生し、一時はその存続さえも危ぶまれた事もあった中、なんとか続けてこれたのも、ひとえに皆様方の御支援の賜物と思っております。

今回も前回に引き続き『広島街の街づくりを考える』をメインテーマに、具体的敷地を選んで、課題を定めております。

そこで、今回の審査員は、広島6・40(TSS)のニュースキャスターとして、その多才さと、様々なジャンルに渡っての知識の広さを発揮され、広島街の街づくりに、深い関心を持っておられる、広島工業大学助教授 水田一征先生に登場して頂くことになりました。水田先

生は、京都大学博士課程を修められ、ドイツ留学、金沢工業大学講師を経て、広工大に生まれ、ドイツ留学中には現地の設計事務所で実施コンペに携わられ、入選された御経験をお持ちである、と伺っております。また、学内においては、自ら率先して実施コンペ等に、参加され、その具体的作業の中で学生の手を取って指導される、といった情熱溢れる御教示ぶりでも知られております。前回にも増して、多数の御応募を期待しております。

課題『天を開く』

屋上に都市のオープンスペースを求めて……

〈主旨説明〉

広島街を歩いて、私の視野に入ってくるものは、鉄とガラスとコンクリートに覆われた建物群と、絶え間なく流れる車の川と、忙しそうに歩く人の群。戦後、無秩序に急成長を遂げた都市の典型が、そこにある。そこから見上げる空も、ビルの稜線によって無秩序に切取られ、その無限の広がり、神秘性を失っている。本来、自然と建築とは、相克し合うものではなく、互いに協働してひとつの景観を開示すべきものである。なんの変りもない風景がそこに建築が建てられる事によってひとつの景観として、自然はより自然らしく、建築はより建築らしく、我々の前に開示されるような、自然と建築の出会いの構造を思い描いている。

『天を開く』とは、正にそのような、天空と建築の出会いの構造を創出して頂く事を意図している。

そこで、今回は、そのような出会いの可能性を秘めた場所として、基町高層アパートの屋上庭園を再生して頂きたい。勿論、その屋上に様々な機能（レストランやアスレチッククラブ、アートギャラリー等）を付加することは自由であるが、一般市民も近隣住民も気軽に利用できる開かれた施設であることが、望ましい。また、現状の建物はできるかぎりそのまま利用し、その再生の方法は、現状建物に、ファサード、屋根、専用のエレベーター及びエスカレーター、等を付加することによって行うものとする。同時に、隣接する広島城や中央公園からの相貌を配慮し、特に広島城からの相貌は、背景として、それを引立たせるようなファサードを考慮して欲しい。創意溢れる案を期待している。

〈所要図面〉

設計意図を表現するために必要なエスキース（パース、イメージスケッチ、模型写真等）を中心とし、主要な平面図、立面図、断面図等は必要に応じてA1サイズの用紙（紙質は自由）1枚の中に構成すること。

〈表現〉

自由とする。但し未発表のものに限る。

〈応募記載事項〉

作品の裏面に応募者の住所、氏名、電話番号、学校名（会社名）を記入すること。

〈応募資格〉

広島県内所在の大学、高専の建築学科学生及びその卒業生。

〈応募締切〉

昭和62年7月31日

郵送の場合は当日の消印のあるものは有効とする。

〈提出先〉

郵便番号738 広島市佐伯区五日市町三宅
広島工業大学建築学科事務室

〈入選賞金〉

総額10万円

審査結果は、応募者に通知するとともに、大学祭（11月3日）にて発表、表彰、展示を行う。

〈其他〉

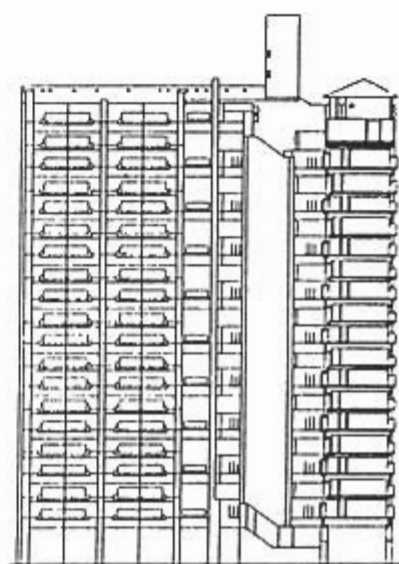
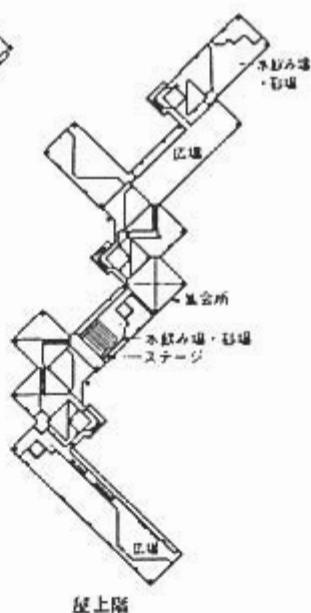
作品の返却、及び、質疑応答はしない。



●メインテーマ「広島市の街づくりを考える」Part2



基町団地 (広島市) 平面図 1:1000



立断面図 1:1000

1:1000

第14回総会のお知らせ

- 日 時 昭和62年4月26日（日曜日）
1. 五三会総会……午後3時
 2. 工大同窓会……午後4時
 3. 懇談会……午後6時
- 場 所 ●五三会総会……広島工業大学 新3号館423室(建築学科 菅原ゼミ室)
●工大同窓会・懇談会……広島工業大学 大学会館
- 内 容 建築学科同窓生五三会員の多数が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、活動報告や会計報告を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。
- 参 加 参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に“出席”と書いて4月20日必着をもって申し込み下さい。
- 〔あて先〕
広島市佐伯区五日市町三宅 広島工業大学建築学科菅原研究室
〒738 TEL (0829) 21-3121 内465
- 会 費 2,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。
(当日御持参下さい。前売券も発売しております。)

建 築 学 科 ゼ ミ 紹 介

佐藤重夫先生 (計画系 教授)

- ①新3号館 314 室
- ②建築概論、建築計画Ⅳ、建築計画、意匠、歴史、建築文化財、建築教育
- ③絵画、写真、漢詩、ゴルフ、歴史研究
- ④建築がとにかく好きであって欲しいと思います。

林 公重先生 (構造系 教授)

- ①新3号館 316 室
- ②土質力学、建築測量学、構造材料工学
- ③ナンでもやるが、上手なものがないのが特技
- ④元気で頑張ってください。時々は母校に顔を出してヨモヤマ話を聞かせて下さい。

中尾好昭先生 (構造系 教授)

- ①新館3号館 312 室
- ②構造工学
テーマ：鉄骨造高層ビルの構造構造・施工
- ③ゴルフ、囲碁
- ④誠実

青木 栄先生 (計画系 教授)

- ①新3号館 313 室
- ②建築構法、計画概論、建築設計製図
- ③テニス、ゴルフ、木版画、水彩画
- ④まず健康

牛島賢象先生 (構造系 助教授)

- ①新3号館 215 室
- ②建築施工
- ③写真、版画(画ではなく、年一回の賀状)
- ④卒業生名簿を片手に、諸君等の故里や住む町を老妻と訪ね歩くとゆう夢の実現も近くなりました。

天満祥弥先生 (設備系 助教授)

- ①新3号館 221 室
- ②建築環境工学
- ③D.I.Y.
- ④急速に変革する日本の産業構造に対して乗り遅れぬよう頑張ってください。

水田一征先生 (計画系 助教授)

- ①新3号館 415 室
- ②計画演習Ⅱ、Ⅲ、形態構成Ⅱ
建築的空間の現象学的研究
- ③コーヒーを飲みつつバッハを聴くこと。
- ④自らの深き心より出ずるもの、蒼き空、広き世界。

高松隆夫先生 (構造系 助教授)

- ①新3号館 216 室
- ②構造力学、鉄骨構造
- ③テニス
- ④健康に気を付けて働いて下さい。

森保洋之先生 (計画系 助教授)

- ①新3号館 220 室
- ②(担当科目)建築計画各論、計画演習、建築設計及び製図
(研究テーマ)住宅の集合化計画、公共施設計画
他に関する研究と設計計画
- ③テニス、読書
- ④●カリキュラムや募集定員の変更など、建築学科は新しい局面をむかえています。
●卒業生の皆様の益々の発展を願ってやみません。

篠原道正先生 (設備系 助教授)

- ①新3号館 411 室
- ②(担当科目)建築設備Ⅰ、Ⅱ、設備演習Ⅱ
(研究テーマ)温冷感の季節変動に関する研究、太陽熱利用システムに関する研究、建築材料の熱貫流率
- ③趣味を持つほどまだ心の余裕がない。
- ④卒業生の皆様の御活躍により、当学科の社会的信用も少しづつ向上していると実感しております。在学生も意欲的な学生が増えてきているように思います。お蔭様で就職の内容も年々改善されてきて、特に今年度のトビックスは、3名の大学院合格者のあったことではないかと思えます。

- ① 研究室
- ② 担当科目又は研究等テーマ
- ③ 趣味・特技
- ④ 卒業生に一言

佐藤立美先生 (構造系 助教授)

- ① 新3号館 218 室
- ② 鉄筋コンクリート構造
- ③ たしなむ程度の酒とへたなゴルフ
- ④ 卒業生の活躍されている話を耳にするのはうれしい事です。益々高度な技術が要求されるようになるとと思いますので、お互いに一歩ずつ努力したいと思います。

丹羽博亨先生 (計画系 助教授)

- ① 新3号館 416 室
- ② 西洋建築史、東洋建築史、建築意匠実習
- ③ 野球
- ④ 学園創立30周年を迎え、新たな発展の時に至っています。

浅野照雄先生 (構造系 助教授)

- ① 新3号館 311 室
- ② 構造力学Ⅰ(新カリ)、構造力学Ⅴ(旧カリ)、耐震工学(旧カリ)
 - 不整形地盤の振動性状に関する研究
 - 地震動の非正常スペクトル特性と構造物の弾塑性応答解析
- ④ 仕事については、とにかく自分の物にしてしまうように努力すること。

佐藤 洋先生 (計画系 助教授)

- ① 新3号館 411 室
- ② 建築デザイン原論、建築計画演習
 - 建築空間における人間の行為・心理の面と建築システムの面からの単位空間の特定

③ 山歩き、絵画

水月空華(すいげつくうげ)自然の中に身をさらし微塵の変化にも対応し、その身体をもって己に没却し、天地一帯とならんとす。

先生

西川加穂先生 (計画系 講師)

- ① 新3号館 319 室
- ② 高令者用住宅計画、集合住宅計画
- ③ テニス
- ④ 時には研究室に顔を見せて下さい。そして実社会の情報を吹込んで下さい。

先生

菅原辰幸先生 (計画系 講師)

- ① 新3号館 413 室
- ② 都市計画、地域計画
 - 地域整備計画に関して
- ③ ゆとりがなく、これから趣味を創っていかうと思っています。
- ④ 努力し、前進していただきたい。

清田誠良先生 (設備系 講師)

- ① 新3号館 412 室
- ② 建築環境学
 - 市街地風の乱流構造と換気
- ③ テニス、カメラ
- ④ 常に努力をすること。

昭和61年度卒業予定者就職内定一覧

〈建築学科 A〉

氏 名	企 業 名	氏 名	企 業 名
青 野 孝 務	荒 川 智 身	中 直 人	岡 幸 篤
石 川 次 修	一 藤 上 樹	岡 本 弘	幸 篤 雄
伊 藤 上 本	井 本 明 子	東 田 義 榮	二 学 之 司
井 岩 上 田	井 田 浩 隆	平 福 聖 哲	一 弘 等
上 江 大 一	江 大 一 則	福 藤 一 美	己 和 弘
大 大 岡	大 大 岡 志 昌	吉 正 眞	博 二 穂 治
大 岡 折	大 岡 折 弘 二	正 眞 水	郎 文 信
折 柿 川	折 柿 川 行 和	見 水 宮	彦 彦 己
河 菊 貴	河 菊 貴 樹	宮 向 村	洋 二 朗
貴 樹 深 桑	貴 樹 深 桑 良	盛 門 矢	彦 治 明
桑 河 小 松	桑 河 小 松 一	山 山 横	一 也 平
小 松 佐 定	小 松 佐 定 健	吉 吉 渡	裕 之 美
佐 定 白 杉	佐 定 白 杉 裕	和 浅 糸	孝 克 勝
白 杉 鈴 育	白 杉 鈴 育 仙	加 土 古	清
鈴 育 仙 高	鈴 育 仙 高 龍	水 吉 大	
高 龍 武 田	高 龍 武 田 月	坪 国 個	
武 田 月 戸	武 田 月 戸 寅		
月 戸 寅 中	月 戸 寅 中 中		
中 中 成	中 中 成 難		
成 難 西 西	成 難 西 西		

〈建築学科B〉

氏	名	氏	名
荒石市井岩岩上大大岡小梶川紀菊木国熊泰小小坂桜迫貞塩下垣杉杉住高高高武竹樽遠中中中成西西西野地	弘真公司郎文治樹一高也弘治聰人誠志郎志史人一章永夫志二暢之英彦樹行治治史孝剛郎司文実義夫二浩里樹彦実 那庸聰弘博康秀勝儀信陽邦惠秀 沢哲篤健成俊浩能拓知誠祥康清公芳宏義哲正博 仲仲義政忠和俊幸衣弘康	野濱林原半久平福藤藤藤二増松白三宮宮村元森山山山山山吉吉相東井上岡小奥栗小坂藤朴村山生郡中橋濱見井	浩一雄和彦幸司治彦司成浩美久和司一美志三史彦司文弘嗣広和聡次己伸明義良雄満信郎行三彦穀徳康一雄也生司 信利英昭直勇 和浩 祐宗浩光正日隆雄茂一博泰昌恭光敏 耕勝 勝昌昌敏輝敏徹直一昌裕美博幸雅修昭誠

[広島工業大学建築学科 教員及び非常勤講師名簿]

〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏 名	住 所	郵便番号	電話番号
佐藤重夫	教 授	計画系	
林公重	教 授	構造系	
中尾好昭	教 授	構造系	
河内義就	教 授	計画系	
松山吉平	教 授	計画系	
金井清	教 授	構造系	
青木栄	教 授	計画系	
牛島賢象	助教授	構造系	
天満祥弥	教 授	設備系	
水田征一	教 授	計画系	
高松隆夫	教 授	構造系	
谷喜夫	教 授	計画系	
森保洋之	教 授	計画系	
篠原道正	教 授	設備系	
佐藤立美	教 授	構造系	
丹羽博享	教 授	計画系	
浅野雄	教 授	構造系	
佐藤洋	教 授	計画系	
西川加綱	講 師	計画系	
菅原幸	講 師	計画系	
清水良	講 師	設備系	
手越昭	助 手	構造系	
大 林 真	技 術 員	構造系	

〔招聘講師〕

氏 名	非常勤
嶋津孝之	非常勤
谷口汎	非常勤
花井正	非常勤
光吉健	非常勤
棹代仁	非常勤
青木義	非常勤
杉本俊	非常勤
岡本部直	非常勤
牧野純	非常勤
恩賀宗一郎	非常勤
岡本貞	非常勤
小野泰	非常勤
関根毅	非常勤
平谷清	非常勤
角田弘	非常勤
有馬秀	非常勤
早川忠一	非常勤

五三会活動報告

●幹事長 森田 洋生

五三会は、本年度の卒業生で19期目のメンバーを迎えることになりました。会員各位におかれましては、円高不況の中、建築界もきびしい状態が続いていますがいかがおすごしでしょうか。

景気回復のままならない今を乗り切るためには、今後共、尚一層の辛抱と会員相互の協力が必要であると思われます。本会は、会員各位の親睦と情報交換の場でありますので、本会を大いに活用していただければ幸いです。

さて、本年度の活動としては、次の様な行事を行ってまいりました。以下ここに御報告申し上げます。

報告内容

昭和61年度活動報告

1. 第13回定期総会の開催
2. 会報誌「五三会」第14号発刊
3. 第12回五三会コンペの実施
4. 在学生に対する援助
5. 会員住所カードの整理
6. 五三会本部組織の強化
7. 五三会会員増加運動

昨年11月9日、本会は、本誌でも紹介しているように、本会学生部会諸君の尽力により開催された、建築家高松伸氏の講演会を後援しました。本会としては、今回のような企画があれば、今後もできる限りの援助をしていきたいと考えております。

会員各位におかれましては、本会の益々の発展のために、尚一層の御理解と御協力をお願いしたいと思います。

五三会収支決算報告

〔昭和60年度収支決算報告〕

◆収入の部

繰越金	1,841,346円
会費	510,000
広告料	750,000
雑収入	6,188
合 計	3,107,534円

◆支出の部

印刷費	305,000円
郵送費	103,360
会議費	57,607
総会負担金	0
コンベ	150,000
在学生援助費	30,000
バイト費	10,000
消費品等雑費	25,000
学術文化費	50,000
予備費	0
繰越金	2,376,567
合 計	3,107,534円

〔昭和61年度収支予算〕

◆収入の部

科 目	小 科 目	金 額
会費収入		700,000
	新会員会費	700,000
活動収入		750,000
	広告料	750,000
雑収入		3,433
	利子収入	1,000
	寄付収入	1
	雑収入	2,432
積立金取崩収入		0
	積立金取崩収入	0
繰越金		2,376,567
	繰越金	2,376,567
合 計		3,830,000

◆支出の部

科 目	小 科 目	金 額
管理費		440,000
	総会費	50,000
	会議費	210,000
	人件費	50,000
	消耗品費	10,000
	備品購入費	50,000
	印刷費	40,000
	通信費	20,000
	雑費	10,000
活動費		904,000
	会報発刊費	634,000
	コンベ	200,000
	会勢費	20,000
	学術文化費	50,000
子備費		150,000
	子備費	150,000
積立金		2,336,000
	積立金	2,336,000
繰越金		0
	繰越金	0
合 計		3,830,000

広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- 1 集 会
 - 1 会員相互の連絡並びに共助に関すること
 - 1 会誌及び会員名簿の発刊
 - 1 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
 - 1 その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- 1 会 員 広島工業大学建築学科卒業生
 - 1 学生会員 広島工業大学建築学科在学生
 - 1 客 員 母校職員及び旧職員
 - 1 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----|
| 1 名誉会長 | 置くことができる | | |
| 1 会 長 | 1 名 | 1 副会長 | 2 名 |
| 1 会 計 | 2 名 | 1 会計監査 | 2 名 |
| 1 幹事長 | 1 名 | 1 幹 事 | 若干名 |
| 1 評議員 | 各卒業年度に若干名 | 1 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- 1 名誉会長は総会をもって推す
 - 1 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
 - 1 幹事長は幹事の中から互選する
 - 1 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する

第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。

- 1 会 長 本会を代表し会務を統べる
- 1 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
- 1 会 計 会計事務に当る
- 1 会計監査 会計を監査する
- 1 幹 事 長 会務を主宰する
- 1 幹 事 会務を処する
- 1 評 議 員 会務を評議する

第 9 条 役員の任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧 問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく。

- 1 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
- 1 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会 議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。

第 13 条 総会は次のことを決める。

- 1 会則の変更と改正
 - 1 役員会の改選
 - 1 決算及び予算
 - 1 その他重要な事
- 第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
- 1 総会に附議する原案
 - 1 この会の運営に関する諸事項
 - 1 その他緊急事項の協議

第 15 条 会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会 計

第 16 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

- 1 会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない
- 1 学生会員は在学期間の会費として2,000円を納入しなければならない

第 17 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

付 則

終身会費については、昭和58年度から施行する。

■お知らせ

建築学科図書室に「谷 喜夫先生文庫」開設

谷 先生は、御退任に際し、御愛蔵の書籍多数を建築学科に御寄贈なされました。絶版となっております高等建築学全26巻ほか、いずれも文献的価値の高いものであります。建築学科といたしましては、「谷 喜夫先生文庫」を設け、永く保存し、有効に活用させていただく所存です。谷先生に深甚なる感謝の意を表する次第です。(建築学科)



編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回の編集に当たっては、変貌をとげる「広島市」の一端を紹介すべく、「広島のみちづくり」にたずさわっておられる諸氏を中心に寄稿して頂きました。学生時代の故郷(広島)だけでなく、今後は、各地から、地域の状況を寄稿して頂く予定です。

また、会員増強を積極的に推進したいと考えていますので、身近におられる同窓生の方で未会員の方がおられましたら、働きかけ等

をお願いします。

会員希望や会誌へのご意見等は、どんどん編集委員までご一報下さい。お待ちしております。

「五三会」第14号 編集委員

上木 薫(53)	広島市都市局営繕課 ☎ 082-228-2111
小川 雅彦(53)	広島大学施設部建築課 ☎ 082-241-1221
西木 治雄(53)	広島ミサワホーム(株) ☎ 082-293-1116

広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第14号

編集責任者	上 木 薫
発行責任者	菅 原 辰 幸
印 刷	ア ク ト 企 画
発 行	昭和62年3月31日